

## 記入例

保険者名： ○○区市町村  
 担当部署： □□部◇◇課△△係  
 ご担当者： ●●、▲▲  
 ご連絡先： ×××-×××-××××

## ◇ ケアプラン点検

## 1 取組姿勢等について

(1) 貴保険者において事業を実施するに当たってのスタンス（方向性や規模感等）について記載してください。

(例)  
 ・管内の居宅介護支援事業所50か所に対して、毎年10か所程度、1事業所当たり1件のケアプラン点検を実施する。包括の主任ケアマネにも協力いただき、自立支援に資する適切なサービス等について検討する。  
 ・経験の浅いケアマネに対して、保険者と共に自立支援型のケアプランについて検討し、ケアマネジメントの質の向上に結びつくよう支援する。  
 ・これまでの点検から得られた管内のケアマネに共通の課題等を踏まえ、独自のガイドラインを作成する。

(2) 事業を推進する上での課題や、支障となっていることについて記載してください。

## 2 計画について

(1) 貴保険者において3期計画で設定した各年度の「取組目標」や「実施方法」について変更がありましたか。

1-（変更した） ・ 2-（変更していない）

1

(2) (1)で「1-変更した」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)  
 ・当初目標では28年度に独自の「ケアマネジャーガイドライン」を作成し、29年度にこれを用いたケアプラン点検を試行的に行う予定だったが、整備が間に合わなかったため、28年度は都ガイドライン及び国のマニュアルを活用した点検を実施し、独自のガイドラインは29年度中に作成することに修正した。

## 3 実績等について

(1) 平成28年度における実施状況について記載してください。

1-（実施） ・ 2-（未実施）

1

(2) (1)で「1-実施」と回答した場合、平成28年度における実施内容について記載してください。

① 実施件数

20件

② ガイドラインやマニュアル等の活用（1～3を併用している場合は複数回答可）

1-（都の「保険者と介護支援専門員が共に行うケアマネジメントの質の向上ガイドライン」）  
 2-（国の「ケアプラン点検支援マニュアル」）  
 3-（保険者独自の手引き等）  
 4-（特になし）

1,2

③ 面談を実施する際の保険者側の主たる点検者（複数回答可）

1-（事務職員）  
 2-（主任介護支援専門員の資格を有する職員）  
 3-（介護支援専門員の資格を有する職員）  
 4-（社会福祉士等、その他の資格を有する職員）

1,3

- ④ 面談に同席している職員（③の主点検者及び点検対象の介護支援専門員以外）（複数回答可）
- 1-（地域包括支援センターの主任介護支援専門員）
- 2-（居宅介護支援事業所の管理者）
- 3-（居宅介護支援事業所の他の介護支援専門員）
- 4-（その他）※設問（3）で具体的に記載してください。
- 5-（特になし）

1

- ⑤ 面談の場以外での主任介護支援専門員の活用（ケアプランの事前チェックや研修講師等）
- 1-（活用している） ・ 2-（活用していない）

1

- ⑥ 介護支援専門員に対するケアプラン点検に関する研修等の開催（連絡会や集団指導を含む。）
- 1-（実施） ・ 2-（未実施）

1

- ⑦ 国保連合会の「ケアプラン分析システム」の活用
- 1-（活用している） ・ 2-（活用していない）

2

- ⑧ 点検の結果等について他の介護支援専門員に対する情報提供
- 1-（実施） ・ 2-（未実施）

2

**（3）（1）及び（2）を踏まえて、貴保険者において設定した平成28年度における「取組目標」に対する進捗実績を具体的に記載してください。**

（例）

- ・都ガイドラインを活用した点検を8件実施。包括の主任ケアマネが同席のもと、事業所が任意に選択したケアプランを対象としている。リ・アセスメント支援シートを用いて利用者の意向やケアマネの判断を再度確認し、サービス内容や回数の見直しも含めて検討している。
- ・国マニュアルを活用した点検を12件実施。経験の浅いケアマネ（1～2年目）を対象として、保険者職員と共に自立支援型のケアプランについて検討している。
- ・ケアマネ連絡会においてケアプラン点検への協力を呼びかけるほか、独自のガイドライン作成に当たって主任ケアマネを交えた検討の機会を設けている。

**（4）進捗実績をどのように自己評価していますか。**

- ① 取組目標や実施方法の適切性等を総合的に勘案し、平成28年度の取組を自己評価してください。

1-（まったく取組が進んでいない） ～ 5-（よく進んでいる）

3

- ② ①のように自己評価した理由を記載してください。

（例）

- ・2種類の点検について対象者を変えて実施し、それぞれのニーズに合った内容で実施することができている。しかし、業務多忙により独自のガイドラインを作成することができなかったため。

**（5）（3）の取組により、どのような効果（成果）がありましたか（又はあると見込まれますか）。**

（例）

- ・都のガイドラインを活用した点検では、アセスメントを一から見直すことで、より利用者のニーズに合った適切なサービス内容に変更する事例が見られた（頻回の訪問介護から定期巡回サービスへの移行等）。
- ・経験の浅いケアマネからは、「点検を受けたことで、利用者の自立支援に資するプランについて理解を深めることができた。今後のプラン作成に当たって、この考え方を応用したい」等の声をいただいている。

**（6）「取組目標」の達成（又は更なる推進）に向けて、どのような課題がありますか。**

（例）

- ・引き続きケアマネへ制度理解を促すことも必要であることはもちろん、今後は利用者への介護保険制度の理念や考え方、ケアプランの在り方等について周知し、利用者にも制度や事業の趣旨をご理解いただくことが課題だと考えている。
- ・ケアマネ連絡会において、当該年度の点検結果から得られたケアマネ共通の課題等について周知する必要がある。

(7) (6) の課題の解決に向けて、どのように取り組もうとしていますか。

(例)

- ・ 給付費通知を活用し、給付適正化の趣旨や取組方針等について利用者に周知することを検討する。
- ・ 点検結果から得られたものは報告書のような形にまとめ、連絡会や集団指導等、様々な機会をとらえてケアマネに周知することで、今後のケアマネジメントに活用されるよう支援する。

(8) (1)～(7) の実績等を踏まえて、「取組目標」や「実施方法」をどのように捉えていますか。

① 設定している取組目標や実施方法を、今後変える必要があると考えていますか。

1- (考えている) ・ 2- (考えていない)

1

② ①で「1-考えている」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

- ・ ベテランのケアマネだけでなく、経験の浅いケアマネに対する点検についても、主任ケアマネ同席のもと点検を実施するほか、事業所の管理者にも同席していただく予定。

③ 今後の実施に当たって、効果検証のためにどのような指標を用いると効果的か、お考えがあれば記載してください。

#### 4 今後の予定について

(1) 平成29年度における取組予定について記載してください (すでに着手している場合を含む)。

(例)

- ・ 独自のガイドライン作成について、主任ケアマネを交えた検討会を複数回開催予定 (29年度の1回目を4月下旬に実施)。ケアマネ連絡会で周知するとともに、年度末までに試行を行う。
- ・ 28年度と同じ定例的な点検については、件数を減らした形で実施予定。

(2) 次期計画を策定するに当たって、その方向性等についてお考えがあれば記載してください。

(3) 平成30年度に居宅介護支援事業所の指定権限等が移譲されることを踏まえ、保険者としてケアマネジメントの質の向上のために新たに考えていることがあれば記載してください。

## 5 事業の趣旨等への理解について

### (1) 保険者におけるコンセンサスは得られていますか。

- ① 保険者自身は事業の趣旨等を理解し、保険者内で方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

5

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

- ・点検前の打合せの際には、担当者全員でケアプラン等のチェックを行い、より多くの事例について考える機会を設けている。
- ・担当者以外の職員の理解も深めるため、係内検討会において適宜情報提供等を行っている。

### (2) 事業者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 事業者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

3

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

- ・ケアマネ連絡会においてケアプラン点検の趣旨は周知している。
- ・今後は点検結果等について情報提供を行うことで、ケアマネの自己点検・相互点検が推進されるよう働きかける予定。

### (3) 利用者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 利用者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

3

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

- ・点検を受けたケアマネには、受け持つ利用者に対して、ケアプランの内容が変更になる可能性等も含めて説明してもらうようお願いしている。

## ◇ 住宅改修等の点検

### 1 取組姿勢等について

(1) 貴保険者において事業を実施するに当たってのスタンス（方向性や訪問調査の選定基準等）について記載してください。

(例)  
・住宅改修に係る点検について、これまでは10万円以上の高額な改修について訪問調査を実施（年間30件程度）していたが、対象を変更し、担当ケアマネがない場合や退院に向けた改修の場合等、調査の必要性が感じられる事例について実施する。（年間20件程度）。  
・調査は利用者の身体状況等を踏まえて専門的観点から実施し、ケアマネや事業者と共に行うことで適切な改修等について普及を図る。

(2) 事業を推進する上での課題や、支障となっていることについて記載してください。

### 2 計画について

(1) 貴保険者において3期計画で設定した各年度の「取組目標」や「実施方法」について変更がありましたか。

1-（変更した） ・ 2-（変更していない）

1

(2) (1)で「1-変更した」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)  
・訪問調査の対象とする住宅改修を10万円以上の高額なものから、①住宅改修のみ利用して担当ケアマネがない場合、②退院に向けた改修の場合、③介護保険制度における改修実績のない事業者の場合に変更したため、対象件数が減少した（30件→15件）。

### 3 実績等について

(1) 平成28年度における実施状況について記載してください。

① 住宅改修に係る訪問調査

1-（実施） ・ 2-（未実施） ・ 3-（住宅改修実績なし）

1

② 福祉用具購入に係る訪問調査

1-（実施） ・ 2-（未実施） ・ 3-（福祉用具購入実績なし）

1

(2) (1)で「1-実施」と回答した場合、平成28年度における実施内容について記載してください。

① 訪問調査の実施件数

住宅改修 →

15件

福祉用具購入 →

3件

② 訪問調査を実施する際の保険者側の主たる点検者（複数回答可）

1-（事務職員）

2-（主任介護支援専門員又は介護支援専門員の資格を有する職員）

3-（福祉住環境コーディネーターの資格を有する職員）

4-（建築士の資格を有する職員）

住宅改修 →

1,3

5-（理学療法士等、その他の資格を有する職員）

福祉用具購入 →

1

③ 訪問調査に同行している職員（②の主点検者、利用者本人及び家族以外）（複数回答可）

1-（利用者を担当する介護支援専門員）

2-（住宅改修事業者又は福祉用具事業者）

3-（その他）※設問（3）で具体的に記載してください。住宅改修 →

4-（特になし）福祉用具購入 →

④ 受領委任払いの導入

1-（導入している） ・ 2-（導入していない）住宅改修 →

福祉用具購入 →

⑤ ④で「1-導入している」と回答した場合、受領委任払いを取り扱う事業者の登録制の採用

1-（採用している）※更新制度あり

2-（採用している）※更新制度なし住宅改修 →

3-（採用していない）福祉用具購入 →

⑥ ⑤で「1」又は「2」と回答した場合、登録に際して設ける要件等の有無

（研修や集団指導への参加、新規登録の場合は償還払いによる実績を義務付ける等）

1-（要件あり） ・ 2-（要件なし）住宅改修 →

福祉用具購入 →

（3）（1）及び（2）を踏まえて、貴保険者において設定した平成28年度における「取組目標」に対する進捗実績を具体的に記載してください。

（例）

- ・①住宅改修のみ利用して担当ケアマネがない場合（8件）、②退院に向けた改修の場合（3件）について訪問調査を行い、利用者の心身の状態等から必要性や妥当性について事業者と確認している。
- ・その他、③住宅改修実績のない事業者の行う改修に対しては必ず訪問調査を行い（4件）、介護保険における趣旨や手続き等も含めて理解していただくよう取り組んでいる。
- ・住宅改修は受領委任払いを導入しており、初回の改修時に訪問調査を行った後、登録事業者としている。
- ・住宅改修と同時に福祉用具を購入する場合には併せて調査を行っている（3件）。

（4）進捗実績をどのように自己評価していますか。

① 取組目標や実施方法の適切性等を総合的に勘案し、平成28年度の取組を自己評価してください。

1-（まったく取組が進んでいない） ～ 5-（よく進んでいる）

② ①のように自己評価した理由を記載してください。

（例）

- ・調査の件数は下方修正したが、必要性等について特に調査の求められるケースに絞った効率的な取組が実施できている。

（5）（3）の取組により、どのような効果（成果）がありましたか（又はあると見込まれますか）。

（例）

- ・記載が充実した申請書が徐々に増えてきているほか、介護保険の住宅改修に該当するケースかどうか迷った際には、申請書を提出する前に相談してくるなど、保険者と事業者との連携体制が整ってきている。

(6) 「取組目標」の達成（又は更なる推進）に向けて、どのような課題がありますか。

(例)  
・受領委任払いの登録事業者も含め、「利用者の心身の状態にあった適切な住宅改修等」とは何か、どういった点に留意すればよいかなど、事業者の理解をさらに促す必要がある。  
・福祉用具購入に係る訪問調査の実施について、対象事例を検討する必要がある。

(7) (6)の課題の解決に向けて、どのように取り組もうとしていますか。

(例)  
・訪問調査を実施した改修のほか、住宅改修の申請書確認時に疑義が生じた改修も含め、住宅改修に係る事例集を作成することで、管内事業者の質の向上を図ることを検討する。  
・福祉用具の同一品目の購入等、他保険者が実施している調査を参考にし、係内検討会等で対象事例を選定する。

(8) (1)～(7)の実績等を踏まえて、「取組目標」や「実施方法」をどのように捉えていますか。

① 設定している取組目標や実施方法を、今後変える必要があると考えていますか。

1-（考えている） ・ 2-（考えていない）

1

② ①で「1-考えている」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)  
・住宅改修の調査対象は29年度も継続するため、28年度の実績に合わせて調査件数を下方修正する。（30件→15件）  
・福祉用具購入に係る訪問調査について、住宅改修のように対象を定めて実施する。

③ 今後の実施に当たって、効果検証のためにどのような指標を用いると効果的か、お考えがあれば記載してください。

#### 4 今後の予定について

(1) 平成29年度における取組予定について記載してください（すでに着手している場合を含む）。

(例)  
・（住宅改修）28年度に引き続き3種類のケースに対して訪問調査を行う。また、受領委任払いの登録に関して更新制を新たに設け、集団指導に参加すること等を要件にして、事業者の質の向上を図る予定。  
・（福祉用具購入）同一品目の購入等、疑義が生じやすいケースを抽出し、数件の訪問調査を実施する。

(2) 次期計画を策定するに当たって、その方向性等についてお考えがあれば記載してください。

## 5 事業の趣旨等への理解について

### (1) 保険者におけるコンセンサスは得られていますか。

- ① 保険者自身は事業の趣旨等を理解し、保険者内で方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

4

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・適宜係内で検討会を行っているほか、事業者から受けた相談等は記録し、独自のQ&Aを作成して類似事例に対応できるよう取り組んでいる。

### (2) 事業者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 事業者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

3

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・集団指導や事業者連絡会を通じて、繰り返し趣旨を説明している。  
・訪問調査を受けたばかりの事業者や大手の事業者はよく理解していると思うが、数年前に登録した事業者や小規模事業者との共有が今後の課題。

### (3) 利用者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 利用者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

4

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・訪問調査の際に趣旨を丁寧に説明しているほか、住宅改修に必要な書類や申請手順についてホームページ上で周知を行い、理解の促進に努めている。

## ◇ 縦覧点検・医療情報との突合

### 1 計画について

(1) 貴保険者において3期計画で設定した各年度の

「取組目標」や「実施方法」について変更がありましたか。

1- (変更した) ・ 2- (変更していない)

1

(2) (1)で「1-変更した」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

・国保連委託している縦覧点検に加え、独自の点検を実施するよう目標と実施方法を変更した。

### 2 実績等について

(1) 平成28年度における実施状況について、各帳票ごとに記載してください。

実施している場合は「1」、未実施の場合は「2」を記載してください。なお、帳票があれば活用するが平成28年度は該当情報がなかった場合は「1」を記載してください。

※縦覧点検の1～4の帳票については、全保険者で国保連委託により実施していますが、都外事業所の利用分等は保険者自身で点検する必要があります。

0- (医療情報との突合)

2

1- (居宅介護支援請求におけるサービス実施状況一覧表) ※

1

2- (重複請求縦覧チェック一覧表) ※

2

3- (算定期間回数制限チェック一覧表) ※

2

4- (単独請求明細書における準受付審査チェック一覧表) ※

2

5- (要介護認定期間の半数を超える短期入所受給者一覧表)

1

6- (入退所を繰り返す受給者縦覧一覧表)

2

7- (居宅介護支援再請求等状況一覧表)

2

8- (月途中要介護状態変更受給者一覧表)

2

9- (軽度の要介護者にかかる福祉用具貸与品目一覧表)

1

10- (独自報酬算定事業所一覧表)

2

上記帳票で「2-未実施」の帳票がある場合、その理由について記載してください。

(2) (1)を踏まえて、貴保険者において設定した平成28年度における

「取組目標」に対する進捗実績を具体的に記載してください。

(例)

・国保連マニュアルを活用し、以下の帳票について点検を行った。  
 ・国保連審査の対象外となった「居宅介護支援請求におけるサービス実施状況一覧表」(計画費縦覧)をチェックし、5件の過誤処理につなげた。  
 ・「要介護認定有効期間の半数を超える短期入所受給者一覧表」で抽出された利用者について、今後のサービスの方向性(在宅又は施設)を担当ケアマネと電話で相談した。  
 ・「軽度の要介護者にかかる福祉用具貸与品目一覧表」をチェックし、届出未提出の7件について過誤処理を行った。

**(3) 進捗実績をどのように自己評価していますか。**

① 取組目標や実施方法の適切性等を総合的に勘案し、平成28年度の取組を自己評価してください。

1- (まったく取組が進んでいない) ~ 5- (よく進んでいる)

5

② ①のように自己評価した理由を記載してください。

(例)  
・前年度に活用しやすい帳票を選定し、そのうちの一部について計画を前倒して実施した結果、一定の成果が上がっているため。

**(4) (2)の取組により、どのような効果(成果)がありましたか(又はあると見込まれますか)。**

(例)  
・国保連マニュアルを活用することで、帳票を効率よく理解し、点検を実施することが可能となっている。  
・一部の帳票は点検した分だけ過誤として実績が上がるため、今後も活用帳票の拡大に努める。

**(5) 「取組目標」の達成(又は更なる推進)に向けて、どのような課題がありますか。**

(例)  
・システムの操作やマニュアルの見方については、実質担当者のみが把握している状態のため、今後の人事異動等も見据えて係内勉強会を行い、継続して実施していく必要がある。

**(6) (5)の課題の解決に向けて、どのように取り組もうとしていますか。**

(例)  
・係内勉強会のほか、国保連合会のシステム研修会や出張研修を受講して知識の定着化及びスキルアップを図る。  
・実務的な処理手順はまとめておき、担当者が変わっても継続した実施が可能になるようにする。

**(7) (1)~(6)の実績等を踏まえて、「取組目標」や「実施方法」をどのように捉えていますか。**

① 設定している取組目標や実施方法を、今後変える必要があると考えていますか。

1- (考えている) ・ 2- (考えていない)

1

② ①で「1-考えている」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)  
・点検を実施した帳票について、国保連マニュアルの内容に実務的な処理手順を追記した手引きを作成したいと考えている。

③ 今後の実施に当たって、効果検証のためにどのような指標を用いると効果的か、お考えがあれば記載してください。

### 3 今後の予定について

(1) 平成29年度における取組予定について記載してください（すでに着手している場合を含む）。

(例)

- ・ 28年度に点検した帳票は引き続き対象とし、年4回の集中処理月間を設けて実施する。
- ・ 対象帳票を拡大するため、国保連合会のシステム研修及び出張研修を活用する。

(2) 次期計画を策定するに当たって、その方向性等についてお考えがあれば記載してください。

### 4 事業の趣旨等への理解について

(1) 保険者におけるコンセンサスは得られていますか。

① 保険者自身は事業の趣旨等を理解し、保険者内で方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

3

② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

- ・ 本事業の目的（誤った報酬請求を適正化する）については共有できているが、システムの操作方法等についても今後共有する必要がある。

(2) 事業者とのコンセンサスは得られていますか。

① 事業者は事業の趣旨等を理解し、保険者との方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

3

② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

- ・ 特段の取組は行っていないが、過誤となった理由について国保連マニュアルに記載のある通知等を提示することで、事業者も納得して改善に努めるため、一定の共有はできていると思われる。

## ◇ 介護給付費通知

### 1 取組姿勢等について

(1) 貴保険者において事業を実施するに当たってのスタンス（方向性等）について記載してください。

(例)

- ・受給者にとって分かりやすく効果的な通知になるよう、受け取った側の反応をアンケートや問合せ記録で把握する等、工夫を重ねながら推進する。
- ・毎年2回の発送を予定しているが、制度改正等による事務負担増との兼ね合いもあるため、通知期間や通知対象は適宜見直すことを視野に入れて検討する。

(2) 費用や事務負担に対して効果が見えにくいとの指摘が多くの保険者から挙がっていますが、効果的に推進する上での課題や必要な見直し等について、お考えがあれば記載してください。

### 2 計画について

(1) 貴保険者において3期計画で設定した各年度の

「取組目標」や「実施方法」について変更がありましたか。

1-（変更した） ・ 2-（変更していない）

1

(2) (1)で「1-変更した」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

- ・当初の目標であった年2回の全受給者宛の通知が、人員不足により実施できていないため、年1回とするよう見直しを行った。

### 3 実績等について

(1) 平成28年度における実施状況について記載してください。

1-（実施） ・ 2-（未実施）

1

(2) (1)で「1-実施」と回答した場合、平成28年度における実施内容について記載してください。

① 通知対象者

1-（全受給者）

2-（在宅サービス受給者のみ）

3-（その他）※設問（3）で具体的に記載してください。

1

② 通知回数

1-（年1回）

2-（年2回又は3回）

3-（年4回以上）

1

③ 対象月数（平成28年度に通知対象とした月数の合計）

3か月

④ 国保連合会への委託状況

1-（自保険者で実施）※国保連合会以外への委託を含む。

2-（国保連合会に委託して実施）※給付費通知書の情報提供まで委託

3-（国保連合会に委託して実施）※給付費通知書の作成まで委託

2

- ⑤ ④で「1」又は「2」と回答した場合、給付費通知の効果を上げるため、給付費に関する情報以外に同封しているもの（1～5を併用している場合は複数回答可）
- 1-（給付費通知の見方、よくあるQ&A等）
  - 2-（介護保険制度・制度改正の概要、介護給付適正化に関するお知らせ等）
  - 3-（管内のサービス、保険料、給付費など、地域状況に関するお知らせ等）
  - 4-（利用サービスに対するアンケート等）
  - 5-（その他）※設問（3）で具体的に記載してください。
  - 6-（特に同封していない）

1,2,4

- ⑥ 利用者への説明について、介護支援専門員等による協力
- 1-（協力依頼している）
  - 2-（依頼していない）

1

**（3）（1）及び（2）を踏まえて、貴保険者において設定した平成28年度における「取組目標」に対する進捗実績を具体的に記載してください。**

（例）

- ・年1回（12月）、3か月分（7月～9月分）の給付費通知を全受給者宛に発送した。通知は国保連合会から提供された給付情報をもとに独自で作成し、①通知の見方、②制度改正のお知らせ、③利用者アンケートを同封して実施。
- ・総合事業への移行に伴い、総合事業を利用した分の情報も併せて発送した。
- ・利用者アンケートは集計し、今後のサービス整備等の参考にする。

**（4）進捗実績をどのように自己評価していますか。**

- ① 取組目標や実施方法の適切性等を総合的に勘案し、平成28年度の取組を自己評価してください。
- 1-（まったく取組が進んでいない）
  - 2-（ほとんど取組が進んでいない）
  - 3-（やや取組が進んでいる）
  - 4-（よく進んでいる）
  - 5-（非常に進んでいる）
- ② ①のように自己評価した理由を記載してください。

4

（例）

- ・通知回数は2回→1回となったが、通知に掲載する内容等については設定した目標がほぼ達成できているため。

**（5）（3）の取組により、どのような効果（成果）がありましたか（又はあると見込まれますか）。**

（例）

- ・利用者の制度理解や制度への関心の促進に貢献している。ケアマネ等の協力もあり、利用者からの通知に係る問合せは数件程度となっている。

**（6）「取組目標」の達成（又は更なる推進）に向けて、どのような課題がありますか。**

（例）

- ・他保険者等の良い取組も参考にしながら、介護給付費通知の新たな活用方法（広報媒体としても使えるような方法等）についても、引き続き検討する必要がある。

**（7）（6）の課題の解決に向けて、どのように取り組もうとしていますか。**

（例）

- ・ケアプラン点検等、利用者の事業趣旨に対する理解促進を図るため、給付適正化の目的や取組内容等についても給付費通知を活用した周知を検討する。
- ・給付実績の帳票のうち「福祉用具貸与費一覧表」から抽出した貸与費の外れ値について、給付費通知に同封することでバラつきを抑えることを検討する。

(8) (1)～(7)の実績等を踏まえて、「取組目標」や「実施方法」をどのように捉えていますか。

① 設定している取組目標や実施方法を、今後変える必要があると考えていますか。

1- (考えている) ・ 2- (考えていない)

1

② ①で「1-考えている」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

- ・ 通知対象を、施設サービスと比べてより効果が見込まれる在宅サービスの受給者に絞ることで、事務の効率化を図る。
- ・ 通知期間及び回数は、28年度に引き続き7月～9月分の年1回とする。

③ 今後の実施に当たって、効果検証のためにどのような指標を用いると効果的か、お考えがあれば記載してください。

#### 4 今後の予定について

(1) 平成29年度における取組予定について記載してください(すでに着手している場合を含む)。

(例)

- ・ 年1回、7月～9月の利用分について、在宅サービス受給者に対して給付費通知を発送する。
- ・ 同封する通知の見方によくあるQ&Aを追記し、利用者にとってさらに分かりやすい通知となるよう工夫する。

(2) 次期計画を策定するに当たって、その方向性等についてお考えがあれば記載してください。

## 5 事業の趣旨等への理解について

### (1) 保険者におけるコンセンサスは得られていますか。

- ① 保険者自身は事業の趣旨等を理解し、保険者内で方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

5

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・通知作成に当たって、同封物の内容を係内で検討する等、適宜情報共有を行っている。

### (2) 事業者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 事業者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

4

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・事業者連絡会や集団指導等の機会をとらえ、本事業の趣旨や考え方等を周知している。

### (3) 利用者とのコンセンサスは得られていますか。

- ① 利用者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1- (理解していない) ~ 5- (よく理解し、共有できている)

4

- ② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)

・発送の際には管内のケアマネに周知し、受け持つ利用者からの問合せ対応等をお願いしている。  
・通知の文字の大きさやカラーを変更する等、利用者にとって分かりやすい通知にする工夫を行っている。今後は給付適正化事業に関するお知らせ等も同封する予定。

## ◇ 給付実績の活用

### 1 計画について

(1) 貴保険者において3期計画で設定した各年度の

「取組目標」や「実施方法」について変更がありましたか。

1- (変更した) ・ 2- (変更していない)

1

(2) (1)で「1-変更した」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

・ 28年度中は活用帳票の検討としていたが、同年度の国保連システム研修会で一部の帳票について活用方法が把握できたため、次の帳票について計画を前倒して活用した。(「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」、「福祉用具貸与費一覧表」、「支給限度額一定割合超一覧表」)

### 2 実績等について

(1) 平成28年度における実施状況について記載してください。

1- (実施) ・ 2- (未実施)

1

(2) (1)で「1-実施」と回答した場合、平成28年度における実施内容について記載してください。

① 国保連合会の「国保連合会介護給付適正化システム<提供情報活用マニュアル>」の活用

1- (活用している) ・ 2- (活用していない)

1

② 給付実績を活用する取組(複数回答可)

1- (事業者への集団指導・個別指導等)

2- (ケアプラン点検の対象事業所等の抽出)

3- (事業者へのサービス内容確認・過誤調整)

4- (サービス担当者会議・地域ケア会議等での検討資料)

5- (その他) ※設問(3)で具体的に記載してください。

1,2,3,5

③ ②で「1」又は「2」と回答した場合、どのような観点で対象事業者等の抽出を行っていますか。

1- (集団指導・個別指導等)

(例)

・ 支給限度額に対して一月の計画単位数が70%を超える事業所に対して、サービス計画を確認するため事業所訪問を行っている。

2- (ケアプラン点検)

(例)

・ 支給限度額に対する計画単位数が過去3か月で増えてきている事業所を抽出し、ケアプラン点検の対象事業所としている。

④ 介護保険における給付情報と要介護認定情報とを突合した情報の活用に当たって、要介護認定情報を国保連合会に送付していますか。

※「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」を活用するためには、

要介護認定情報を国保連合会に送付する必要があります。

1- (送付している) ・ 2- (送付していない)

1

⑤ ④で「2-送付していない」と回答した場合、保険者自身で給付情報と要介護認定情報との突合を行った活用・分析等を行っていますか。

1- (国保連合会の介護情報提供WEBシステムを活用して行っている)

2- (その他のシステムを活用して行っている) ※設問(3)で具体的に記載してください。

3- (行っていない)

(3) (1) 及び (2) を踏まえて、貴保険者において設定した平成28年度における

「取組目標」に対する進捗実績を具体的に記載してください。

※具体的な帳票名が分かる場合は併せて記載してください。

(例)

- ・「認定調査状況と利用サービス不一致一覧表」から、不適切と思われるサービスの抽出及び確認を通じて年間〇〇件の過誤処理に結びついている。
- ・「福祉用具貸与費一覧表」を活用して全国・東京都・区市町村における平均貸与数を算出し、ホームページに掲載して利用者及び事業者に周知している。
- ・「支給限度額一定割合超一覧表」から、過剰なサービス計画を立てていると思われる事業所を抽出し、実地指導やケアプラン点検の対象事業所としている。

(4) 進捗実績をどのように自己評価していますか。

- ① 取組目標や実施方法の適切性等を総合的に勘案し、平成28年度を取組を自己評価してください。

1- (まったく取組が進んでいない) ~ 5- (よく進んでいる)

4

- ② ①のように自己評価した理由を記載してください。

(例)

- ・活用を始めた帳票からは一定の効果が出ているものの、その他の帳票についてはまだ検討段階にあるため。

(5) (3) の取組により、どのような効果 (成果) がありましたか (又はあると見込まれますか)。

(例)

- ・不適切・不適正と思われるサービス利用について事業者を確認することで、給付適正化と事業者の質の向上に繋がる。
- ・福祉用具の平均貸与費について、公定価格がない中で適正価格の促しに貢献している。

(6) 「取組目標」の達成 (又は更なる推進) に向けて、どのような課題がありますか。

(例)

- ・帳票の見方、活用方法等について、国保連マニュアルや出張研修等を活用して、さらに検討を重ねる必要がある。
- ・担当者の異動等に備え、事務処理手順を引き継げるようにしておく必要がある。

(7) (6) の課題の解決に向けて、どのように取り組もうとしていますか。

(例)

- ・帳票の活用方法について、他保険者の事例も参考にしながら、主要5帳票を中心に係内検討会において試行を実施する。
- ・新たな帳票を本格活用する際には、事業者連絡会等で事前周知を行い、事業者の協力も得ながら円滑な事業実施に努める。

(8) (1) ~ (7) の実績等を踏まえて、「取組目標」や「実施方法」をどのように捉えていますか。

- ① 設定している取組目標や実施方法を、今後変える必要があると考えていますか。

1- (考えている) ・ 2- (考えていない)

1

- ② ①において「1-考えている」と回答した場合、その具体的内容について記載してください。

(例)

- ・28年度から活用を開始した帳票については29年度も引き続き実施し、その他主要5帳票等について試行的に活用を図る。

- ③ 今後の実施に当たって、効果検証のためにどのような指標を用いると効果的か、お考えがあれば記載してください。

### 3 今後の予定について

(1) 平成29年度における取組予定について記載してください（すでに着手している場合を含む）。

(例)  
・「福祉用具貸与費一覧表」から分析される貸与費の外れ値について、給付費通知を活用した利用者への周知を検討する。  
・「全体総括表」、「介護支援専門員あたり給付管理票作成状況一覧表」の活用について検討する。

(2) 次期計画を策定するに当たって、その方向性等についてお考えがあれば記載してください。

(3) 給付実績の情報について、サービスの見込み量の推計や適正化の取組に反映させることを検討している場合、その内容や方向性についてお考えがあれば記載してください。

### 4 事業の趣旨等への理解について

(1) 保険者におけるコンセンサスは得られていますか。

① 保険者自身は事業の趣旨等を理解し、保険者内で方向性の共有等できていますか。

1-（理解していない） ～ 5-（よく理解し、共有できている）

4

② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)  
・本事業については介護事業者の現状をデータとして把握しつつ、不適切な給付を発見することが目的であり、この点については適宜共有できている。

(2) 事業者とのコンセンサスは得られていますか。

① 事業者は事業の趣旨等を理解し、保険者と方向性の共有等できていますか。

1-（理解していない） ～ 5-（よく理解し、共有できている）

4

② 理解促進のために何か取組をしているか記載してください。

(例)  
・事業者へサービス内容を確認する前に、事業者連絡会や集団指導で本事業の実施について周知している。その際、あくまで「不適切な給付の可能性がある」場合に確認することを伝え、事業者が自主的に過誤申請を行うよう促している。